

一宮町長
馬淵 昌也

今年も9月13日に、上総十二社祭りが盛大に行われました。今年は、わたくしもお神輿を担ぐチームに加わりうと思っていました。が、大事なお客さまが見えたので、昨年同様観客の方に回らせていただきました。

お祭りのあと、一宮幹部交番の仲村所長から伺ったのですが、県内各所で多くのお祭りの警備などに当たった経験を重ねていうと、上総十二社祭りは、別格の品位を備えた祭り、ほかのところとは全然違うということでした。まず、お祭りに大勢の女性の方々や子どもさんが参加しておられ、お祭りの中枢にまで関与している形が、ほかと全然違って優れている、と言っておられました。ほかでは、ほぼ男性だけが仕切っていて、女性や子どもの参加は少ないし周辺部に限られるということです。お祭りがみんなのものになっているということが、まずよい点だということでした。また、男性の方々の振る舞いも、大いに盛り上がっているとはいっても、羽目を外すまでではないところも素晴らしいというお話でした。ほかのところでは、酒の飲みすぎと暴力沙汰などがつきものだと思います。

一宮町の先輩方に伺ってみると、十二社も7月の天王マチも、かつては酒のがぶ飲みや喧嘩は茶飯事だったとのこと。しかし、確かに近年、一宮町のお祭りではそうした混乱や騒動は見かけません。仲村所長は、女性や子どもへの参加が多くなって、男性も自制するようになったのだらうと言っておられました。が、参加者のみんなが喜びを最大にするのがお祭りの極意なら、暴力沙汰より笑顔の応酬で盛り上がるほうがよいに決まっています。そういう意味では、一宮町のお祭りはよい方向にアップデートされてきているといえましよう。

今年は、玉前様も南宮様も、お神輿の担ぎ手の門戸を広く開いて、希望される方はどうぞご参加ください、という広報をされました。これも、神社のお祭りは氏子だけのものという、従来の日本のお祭りの形態から、地域のみんなが参加できる共有の行事に衣替えしてゆこうという動きととらえることができます。

一宮町にとって、町の結集力を確認する大事な行事がお祭りです。これからも続けて、良い方向へ進んでゆくことを期待したいと思います。